

# 伝統野菜 夏セリ定植開始



セリ栽培歴11年目

齋藤光幸さん（綴子地区）

6月12日（土）、県内では珍しい夏セリの定植が綴子田子ヶ沢集落ではじまり、セリ生産者の齋藤光幸さんの圃場では、およそ40,000本のセリ種が植えられました。同集落は夏場から露地物のセリを栽培できる県内唯一の産地で、古くから伝統野菜としてセリが栽培されています。現在は農家4軒が苗代を転用して栽培しています。

田子ヶ沢の夏セリの定植の方法は、他の産地とは違い、昔ながらの田植えのように手植えで行われます。定植用のセリ種は前年栽培した親株のセリを10センチほどに切った茎の部分を使用します。これを一カ所に3本ずつ、圃場全体に蜜植していくのですが、これはお互い競い合って育つセリの習性を生かしたものです。蜜植することでセリは真上にしっかりと伸び、根は下方向に張り、収穫作業もしやすくなるそうです。夏セリは、植え付けてから数日で根が伸び始め、およそ25～30日で収穫となります。齋藤さんは効率的かつ安定した収量を確保するため、今後は隣り合う3つの圃場にも順次定植し、収穫期の9月頃までに定植と収穫作業を繰り返し行います。

齋藤さんは「夏場は雨と湿度を好むセリがぐんぐん育つため、今後は圃場の水管理を徹底し、皆さんに良いものをお届けしたい」と話していました。

